

6月ゼミ宿題

1. 6月ゼミの宿題内容

6月のゼミ宿題は、構成についてである。5月13日（日）の5月第2ゼミでは、5月時の牛山武久レポートを素材にし、小倉が構成案を提示するかたちでゼミ授業を行った。小倉の構成案は別添した。任意のテーマに関し、こうした構成案をつくることができるようになるには、要件がある。1つは、構成に関するいくつかの基本的な型を持つことである。2つは、テーマに応じてそうした基本パターンを適切に変えて適用できることである。こうしたことも踏まえ、次の問いに答えなさい。

- (1) 構成はどのように行えばよいと思うか、自分の考えを書け。
- (2) いい構成やよくない構成は共にあると思うか。
- (3) これがあるとするなら、両者を分かつ要因は何か。
- (4) いい構成の要件は、どのようなものであると考えるか。
- (5) テーマと構成はどのような脈絡でつながるのか。
- (5) 調べることと構成はどうつながるのか。
- (6) これらを踏まえると、構成することは、論文づくりにおいてどのような位置を占めると思うか。

2. 6月ゼミ宿題の狙い

- (1) 論文づくりにおける構成作業の意味をつかむ
- (2) 自分のテーマに関して的確な構成が行えるようになる
- (3) 他者が書く文書の構成の適否がみきわめられるようになる

3. 6月宿題選定の経緯

5月ゼミ宿題は、物事の調べ方であった。テーマについて一定程度調べることができれば、次に来る問題は、調べることで得た素材や材料、情報をどのように組み立て、論ずることにつながるかである。これは論文づくりにおける構成の問題に他ならない。そこで、6月ゼミの宿題テーマとするものである。

4. 回答にあたっての注意

今回の宿題は、例月に比べて問いの数が多い。したがって、回答を出すことだけを急ぐならば、自分の回答について理由や根拠、裏づけは示さずに主観的判断のみで記述することも考えられる。しかし、このような回答であると、読み手にとって伝わるものは何もない。こうした回答はくれぐれも避けてほしい。一つ一つの論述には、必ず理由や根拠、裏づけをもって書くこと。また、読ませる内容とするには、自分の事例や他者の事例など、具体的な次元で書くことがよい。あるいは、論述にストーリー性や一貫性を盛り込むこと

もよい。これは問いの数が多いので、事務的にその内容に応えるだけでは無味乾燥な答えになりがちである。それゆえ、なおさら大事になる。この点からいえば、ここでの問いに一項目ずつ答えるのではなく、ストーリーや一貫性を意識しつつ全体の論述の中で触れるという書き方があってもよい。

5. 対象者

今回の宿題の対象者は、M2、M1、学部生とする。なお、修了生の参加も歓迎される。

6. 提出方法

宿題は、メーリングリストにより提出する。ワードファイルである。
ファイル名は「2012年6月ゼミ宿題（提出者の名前）」に統一する。

7. 提出期限

6月6日（水）